事例５　第４学年　内容項目：Ｃ　伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度

・道徳的価値を自分事として捉えさせる意識調査を活用した導入	・教材を自分事として捉えさせる教材提示
・自己を見つめさせる問い返し	・道徳的価値を自分との関わりで考えさせる問い返し
・多面的・多角的に考えさせる役割演技	・自分との関わりで振り返らせるワークシート
・道徳的価値についての考えを深めさせる説話	

１　主題名　伝統と文化を受け継ぐ人たちの思い

２　ねらい　郷土の伝統と文化、それを支えてきた人々や守ろうとしている人々の思いを考え、伝統を守り続けることのよさや難しさについて話し合うことを通して、郷土の伝統と文化に親しみをもち郷土を愛する態度を育てる。

教材名　「キラキラ光るあめ玉―川越菓子屋横丁―」（出典：「彩の国のどうとく」（中学年）『みんななかよし』県教委）

３　主題設定の理由

⑴　ねらいや指導内容について

本時は、第３学年及び第４学年の内容項目「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。」に関するものである。

人は、生まれ育つ地域から様々な影響を受けて、国や郷土に対する様々な思いを抱き、成長する。また、自分も地域を構成する一員という自覚があってこそ、社会規範を意識した行動がとれたり、相手のことを考えて迷惑をかけないように行動しようとしたりすることができる。地域の一員という自覚をもつためには、自分の郷土を大切に、また、郷土を誇りに思う気持ちが不可欠である。郷土の伝統や文化、先人の努力に対する理解などを通し、自分の国について考えることで、伝統や文化を継承し、貢献しようという生き方へと発展していく。それは、単に自分の国と外国を比べて、優れた部分を見つけることではなく、広い視野で世界の国々を見つめ、異文化のよさや外国に住む人々の思いを理解することであると考える。

この授業では、郷土の伝統と文化、それを支えてきた人々や守ろうとしている人々の思いを考え、伝統を守り続けることのよさや難しさについて話し合うことを通して、郷土の伝統と文化に親しみをもち大切にしていこうとする態度を育んでいきたい。

⑵　これまでの学習状況及び児童の実態について

児童は、生活科の学習において、けん玉や竹馬などの昔遊びに触れてきた。また、社会科では、知恵を絞り、互いに協力することで、水が豊かではないこの土地を開拓してきたという地域の歴史や習わしなどについて学習してきた。国語科においては、俳句などの伝統的な言語文化について学び、更に、行事では、地域の神社の祭礼に参加したり、お正月の繭玉作りなどを行ったりしてきた。こうした学習を経験してきた児童が、国や郷土の伝統と文化に関してどのような意識をもっているのかを把握するため、以下の調査を実施した。

調査日　平成３０年９月１０日　回答数　３４名

１　あなたの身の回りに、昔から伝わるもの（言葉や習慣）や建物はありますか。

はい・・・２８名　　　いいえ・・・６名

※「はい」と答えた人は、それがどんなものなのか教えてください。

六所神社	７名	竹とんぼ	２名	日光東照宮	２名
大阪城	３名	ベーゴマ	２名	その他	１２名

２　昔から伝わるものや建物に触れた時、どんな気持ちになりますか。

・すごいな。
・昔の人は頭がいい。
・昔の人は、便利な道具を使わないで、すごく立派なものを作って、すごいな。
・無回答　　６名

『１　あなたの身の回りに、昔から伝わるもの(言葉や習慣)や建物はありますか。』の項目では、「はい」が２８名、「いいえ」が６名であった。「はい」と答えた児童には、それが具体的に何かという質問をしたところ、地域の六所神社を挙げる児童が７名と多くいた。それ以外は、竹とんぼやベーゴマなどの昔からの遊び道具を挙げたり、日光東照宮や大阪城など遠く離れた地域の歴史的建造物を挙げたりしている児童が多かった。この項目では、昔から伝わる道具や建造物の回答は見られたが、言葉や風習についての回答は見られなかった。

『２　昔から伝わるものや建物に触れた時、どんな気持ちになりますか。』の項目では、回答の内容としては、「すごいな。」という気持ちが多かった。その中には、単にすごいということではなく、昔の人々の知恵や工夫、苦労に対しての思いを答えている児童が６名いた。また、無回答の児童は６名であった。

以上のことから、児童は地域の伝統と文化に触れてはいるものの、郷土の伝統と文化、それを支えてきた人々や守ろうとしている人々の思いまで深く考えるには至っていなかったと考える。そこで、本時においては、川越菓子屋横丁という身近な地域の教材を活用して、伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度についての深化を意図して指導をしていく。

⑶　教材の特質や活用方法について

本教材は、川越菓子屋横丁の老舗飴屋が舞台である。主人公「ぼく」が、機械に頼らず、昔ながらの手作りであめ玉を作るおじさんの様子を見たり、話を聞いたりすることを通して、郷土の伝統と文化について考えていく。伝統を受け継ぐ人々の思いが中心に描かれ、伝統を支えてきた人々や守ろうとする人々の思いを考えるのに適した教材である。

①「ぼく」があめ玉屋にしぶしぶついていった場面

普段の生活の中で伝統と文化について触れてはいるものの、それに無関心だったり、伝統を受け継ぐ人々の思いについて深く考える機会が少ないという自覚をもたせたりするために、(なんだあめ玉か)と思いながら菓子屋横丁にしぶしぶついて行った「ぼく」の気持ちを活用する。

②「ぼく」があめ玉屋のおじさんの話を聞いている場面

伝統を受け継いで守っていくためには、大変な苦労を乗り越えたり、その思いを支える強い意志が必要であったりすることについて考えさせるために、機械に頼らず、お客様のために手作りのあめ玉を作り続けるおじさんの話を聞いていた「ぼく」の気持ちを活用する。

③あめ玉に対する思いが変化した場面

伝統を長い間守り続けることのよさや難しさを自分との関わりで話し合わせるために、菓子屋横丁のあめ玉について友達に紹介する役割演技を取り入れる。

以上の理由から、本主題を設定した。

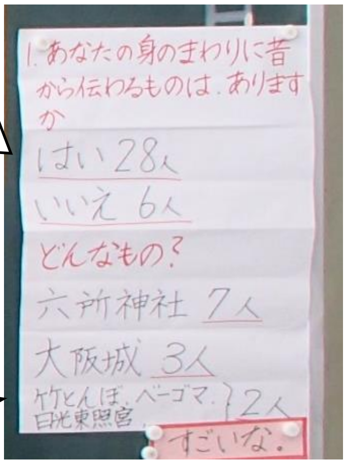
４　学習指導過程

<table>
<tr><th>段階</th><th>学習活動と主な発問</th><th>予想される児童の反応</th><th>・指導上の留意点☆評価の視点</th></tr>
<tr><td rowspan="3">導入</td><td>１　自分の考え方を見つめる。</td><td></td><td>・アンケートの結果を提示する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">１　あなたの身の回りに、昔から伝わるもの(言葉や習慣)や建物はありますか。
※「はい」と答えた人は、それがどんなものなのか教えてください。
２　昔から伝わるものや建物に触れた時、どんな気持ちになりますか。</td></tr>
<tr><td>・「昔の人はすごい。」という意見が多くありましたね。すごいものを作ってきた人や続けてきた人は、どんなことを考えていたのだろうか。</td><td>・守っていきたい。
・未来にまで残したい。
・よさを知ってほしい。</td><td>・ねらいとする道徳的価値について問題意識をもたせる。
・児童の実態を捉えた学習課題を提示する。</td></tr>
</table>

道徳的価値を自分事として捉えさせる意識調査を活用した導入

Ｔ：「昔の人はすごい。」という意見が多くありましたね。すごいものを作ってきた人や続けてきた人は、どんなことを考えていただろうね。
Ｃ：守っていきたい。
Ｃ：後々まで、残していきたい。
Ｃ：大変だけれど、未来へ残すために頑張ろう。

児童の実態を具体的な数字と言葉で示し、ねらいとする道徳的価値について問題意識をもたせた。



学級の実態を共有することや、自分の考えと友達の考えの共通点・相違点について確認した。

展開	２　教材「キラキラ光るあめ玉―菓子屋横丁―」を読んで、話し合う。		・教師の読み聞かせで教材を提示する。 ・菓子屋横丁の紹介をする。

教材を自分事として捉えさせる教材提示

Ｔ：１４０年も前から続く商売の街ですよ。
Ｔ：休日は多くの人が訪れています。
Ｔ：あめ玉やさんが多くて、別名「飴屋横丁」とも言われていますよ。

菓子屋横丁の歴史と様子を伝えることで、教材に対する児童の興味・関心を高めた。また、伝統と文化の尊重という本時のねらいとする価値への方向付けを行った。

	⑴「ぼく」が、（なんだあめ玉か．．．）と思ったのはどうしてですか。	・あめ玉なんか別に興味がない。 ・あめ玉なんて何も面白くないじゃないか。 ・あめ玉でなくても、ほかに面白いものがある。 ・あめ玉なんかよりももっと美味しいものかと思った。 ・まあ、あめ玉でも食べてみるか。	・普段の生活の中で伝統と文化について触れてはいるものの、それに無関心だったり、伝統を受け継ぐ人々の思いについて深く考える機会が少ないという自覚をもたせたりするために、（なんだあめ玉か）と思いながら菓子屋横丁にしぶしぶついて行った「ぼく」に共感させる。 ・じっくり考える時間をとってから意見を聞く。

自己を見つめさせる問い返し

あめ玉に対する思いについての意見交流

Ｔ：「ぼく」が、(なんだあめ玉か．．．)と思ったのはどうしてですか。

Ｃ：あめ玉より好きなお菓子があるから、あめ玉なんかよりそっちがいい。

Ｔ：確かにね。他にもお菓子はありそうだもんね。

Ｃ：あめ玉なんかコンビニとかどこでも買えるから、別のものがいい。

Ｔ：あめ玉はいろんなお店にあるものね。

Ｃ：いつも食べてるお菓子のあめ玉だと飽きるからいやだ。

Ｃ：わざわざ来たんだからあめ玉より自慢できるものがいい。

> あめ玉に対する「ぼく」の思いと、児童の思いの共通する部分を引き出すことで、自分のこととして捉えさせた。

Ｔ：あめ玉は自慢できないの？

Ｃ：形とか味とかがレアだったり、高級だったりしたら、自慢できるけど、昔のあめ玉は普通のあめ玉だと思うから。

Ｔ：珍しいものや値段が高いあめ玉がみんなにとって自慢できるあめ玉なんだね。それに対して菓子屋横丁のあめ玉は自慢できないあめ玉なのね。

> 問い返しをすることで、児童の考えを深めさせた。また、発言している児童以外の児童にもその問い返しについて考えさせた。

⑵「疲れもふっとんじゃうよ。」というおじさんの話を聞いたとき、「ぼく」はどんなことを考えましたか。	・全部手作りなの？すごい！ ・あめ玉作りに強い思いがあるんだな。 ・おじさんにとってのこだわりがあるんだな。 ・こうやって伝統は受け継がれていくんだな。 ・この伝統を守り続けてほしいな。	・伝統を受け継いで、守っていくためには、大変な苦労を乗り越えたり、その思いを支える強い意志が必要であったりすることについて考えさせるために、機械に頼らず、お客様のために手作りのあめ玉を作り続けるおじさんの話を聞いていた「ぼく」に共感させる。

道徳的価値を自分との関わりで考えさせる問い返し

伝統の継承、職人さんの思いについての交流

Ｔ：「つかれもふっとんじゃうよ。」というおじさんの話を聞いたとき、「ぼく」はどんなことを考えましたか。

Ｃ：大変なのに、頑張っていて本当にすごいな。

Ｃ：手作りでやっていて、ほかのあめ玉とは違うんだな。

Ｔ：違うって何が違うのかな。

Ｃ：機械で作るよりも美味しいから。

Ｔ：機会で作るものは美味しくないの？手作りだと絶対に美味しいの？

Ｃ：おじさんの思いがつまっているから。愛情とか。気持ちとか。

> 問い返しを繰り返すことによって伝統と文化について、深く、また、多面的・多角的に考えさせた。

T：今、愛情って言ったね。思いって言ったね。それは何に向けての愛情や思いなのかな。
C：買ってくれる人とか食べてくれる人。
C：美味しいねって言われたらやる気にもなる。
T：確かにね。美味しいって言われたら、うれしいもんね。
C：他にも理由があると思う。
T：例えばどんな理由？
C：この味をいろんな人に知ってもらって、ずっと続けていきたい。
C：手作りのあめ玉のよさを未来の人にも伝えたい。つなげたい。
T：140 年も前から今まで続いてきて、これからも続けるってこと？そういう思い？
C：そう！

明確な指導の意図をもち、「愛情」「気持ち」「思い」等のねらいにつながる言葉が出てきた時に、更に考えさせるような発問をし、話合いを深めるようにした。

⑶あめ玉を食べた「ぼく」は、菓子屋横丁のあめ玉についてどんな思いをもちましたか。 （中心発問）	役割演技 友達「昨日菓子屋横丁に行ったんだって。どうだった。」 ぼく「行ったよ。手作りのあめ玉やさんに行ったんだ。」 友達「え、あめを手作りしてるの。大変じゃない。少しずつしか作れないじゃない。」 ぼく「ぼくもそう思ったけど、おじさんには手作りにこだわる理由があるんだって。」 友達「そんなに大切なこだわりなの。」 ぼく「手作りで昔ながらの味を出せることと、お客さんがその味を待ってるからって言ってたよ。伝統を守っていきたいんじゃないかな。」	・伝統を長い間守り続けることのよさや難しさを多面的・多角的に話し合わせるために、菓子屋横丁のあめ玉について友達に紹介する役割演技を取り入れる。 【よさ】⇒いろいろな人の努力や思いで、昔からの味が受け継がれている。自分たちもその味を味わえる。 【難しさ】⇒手作業でしか出せない味のため、作業が過酷である。後継者を作らなければ、あめ玉の味が味わえない。 ☆役割演技において、伝統を受け継ぎ、守っていくことのよさや難しさについて、様々な立場や見方で考えている。（発言・役割演技） ぼく・・・児童 友達・・・教師 ・教師が相手役になり、考えさせたいことがぶれないような問い返しをして、ねらいに迫れるようにする。

多面的・多角的に考えさせる役割演技

長い間、伝統を受け継いでいくことのよさや難しさについての役割演技
T：「昨日菓子屋横丁に行ったんだって。どうだった。」
C：昔ながらの手作りで、あめ玉を作っているお店があってね、おじさんが一生懸命作っていたよ。

Ｔ：今時、手作りなの？
Ｃ：うん、手作りで、とっても甘くておいしいよ。
Ｔ：それは手作りでなくちゃいけないの？
Ｃ：そうだよ。手作りだからだせる味なんだって。
Ｔ：そんなに大切なこだわりなの？
Ｃ：そうだよ、手作りにはおじさんの愛情がいっぱいつまっているから。
Ｔ：そうなんだ、食べてみたいな。
Ｃ：今度一緒に行って、おじさんにいろいろと話を聞いてみようよ。

「どうして」「なぜ」の問い返しをすることで、教材には表れていない部分も含めて、伝統と文化を尊重するよさや難しさについて、多面的・多角的に考えさせた。

（中略）

演技を見ている児童に考えを聞き、全体で話し合った。

Ｔ：Ｃくんは、手作りは大切なこだわりだって言っていたけれど、本当に大切だと思いますか。
Ｃ：大切だと思います。だって、手作りにはおじさんの思いがつまっているから、特別なあめ玉になるから。
Ｃ：自分が手作りのあめ玉を作り続けることで、そのよさを知って、受け継ぐ人が出てくるかもしれないから。

代表者による役割演技を全体に広げる

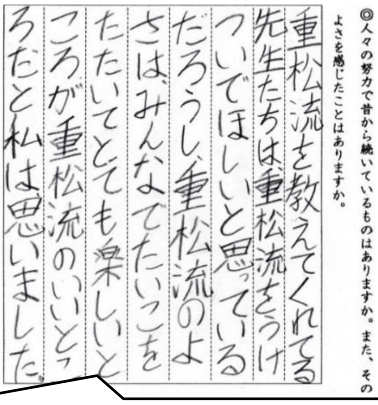
３　今までの自分を振り返りよりよい生き方を考える。 ・人々の努力で昔から続いているものはありますか。また、そのよさを感じたことはありますか。	・昔の人が色々な努力をして守ろうとしてきたからすごい。 ・自分たちも受け継いでいきたい。 ・近所に手作りのだんごやさんがあり、そこのおばさんも一生懸命にだんごを焼いていているので、これからも頑張って欲しい。	・導入での問いかけについて触れ、郷土の伝統や文化に親しみをもち、自分を振り返ることができるようにする。 ☆郷土の伝統や文化について自分の体験と関連付けながら考えている。（発言・ワークシート）

自分との関わりで振り返らせるワークシート

Ｔ：人々の努力で昔から続いているものはありますか。
また、そのよさを感じたことはありますか。

書かせる視点を明確にした。

Ｃ：重松流祭り囃子は、学校でクラブになっているし、地域の人たちも教えに来てくれているので大切にされているのだなと思った。また聴いてみたい。
Ｃ：私が小さい頃住んでいた群馬の神社でお地蔵様に看板がついていました。三百年前と書いてあったのを見て帰りましたが、通りかかった時、お地蔵様についた泥や落ち葉を取ってきれいにしている人を見て、昔からの物を大切にしているんだな、と思いました。
Ｃ：岩崎ささら獅子舞が昔から続いています。お父さんに、どんな獅子舞か聞いて、今度行ってみたいな、と思いました。
Ｃ：ところざわまつりです。たくさんのお店やお囃子や神輿が出ます。これらは、ところざわまつりを続けたい、たくさんの人に楽しんで続けてほしいという人たちの気持ちがあるのだと思います。

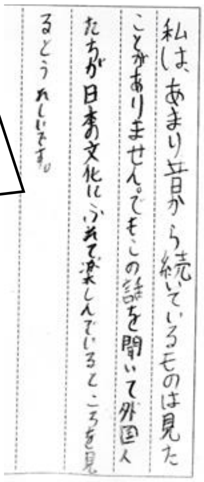


◎人々の努力で昔から続いているものはありますか。また、そのよさを感じたことはありますか。

重松流を教えてくれてる先生たちは重松流をうけついでほしいと思っているだろうし重松流のよさはみんなでたいこをたたいてとても楽しいところが重松流のいいところだと私は思いました。

身近な伝統と文化を大切に思う人々の気持ちやそのよさについての思いが書かれている。

これまで、伝統と文化について考える機会が多くなかった児童が、本時の学習を通して、来日した外国人が日本の伝統と文化に興味をもっていることを嬉しいと感じる自分に気付いた。



私はあまり昔から続いているものは見たことがありません。でもこの話を聞いて外国人たちが日本の文化にふれて楽しんでいるところを見るとうれしいです。

終末	4　教師の説話を聞く。		・普段児童が親しんでいる地域の神社の話をする。

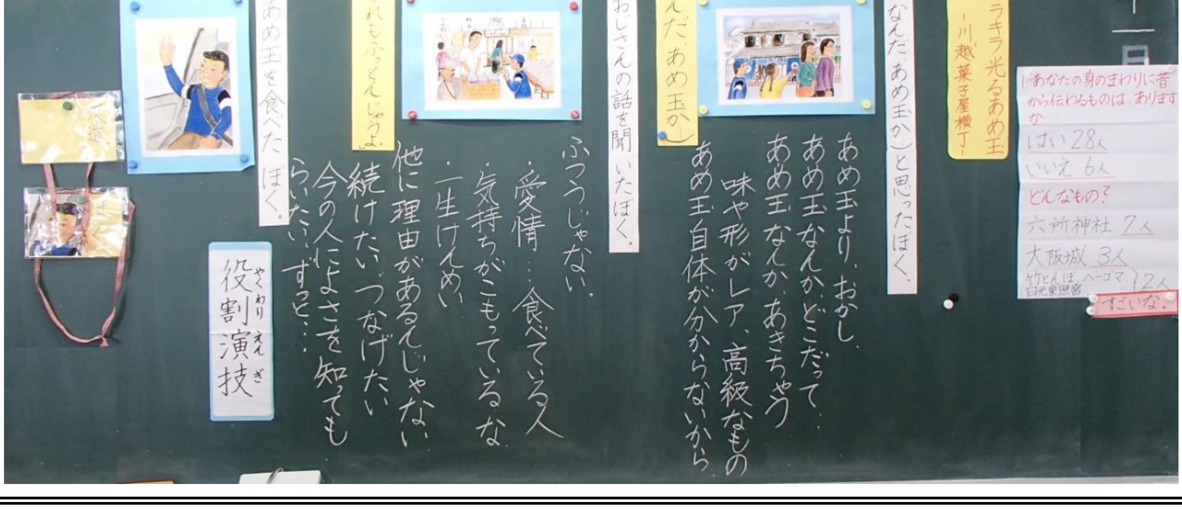
道徳的価値について考えを深めさせる説話

Ｔ：この絵を見てください。菓子屋横丁のあめ玉屋さんです。先生があめ玉屋さんに行ったとき、たくさんの外国の方があめ玉を見ていました。みんなにとっては当たり前のあめ玉、どこにでもあるあめ玉にとても引き寄せられていました。実は、外国の方々から見ると、日本の伝統や文化と言われるものはとても美しく、魅力的なものに映るようです。あるいは、みんなよりも詳しいかもしれませんね。

Ｔ：さて、みんなの住む上新井地区には『六所神社』がありますね。夏にお祭りがあって参加したことがある人もいると思います。あのお神輿やお囃子、神社そのものは、どのようにして受け継がれてきたのでしょうね。そこにはどんな思いがあるのでしょうね。先生が地域の方々と話す機会があれば聞いてみたいなと思います。今まで気付かなかった地域のよさに気付くことができるかもしれませんね。

導入で活用した菓子屋横丁様子の絵を再度提示する。

本時の板書



５　他の教育活動との関連

事前指導	総合的な学習の時間で、地域のもつよさについて調べ、まとめる。
特別の教科　道徳	教材「キラキラ光るあめ玉―川越菓子屋横丁―」を活用し、郷土の伝統と文化、それを支えてきた人々や守ろうとしている人々の思いを考え、伝統を守り続けることのよさや難しさについて話し合うことを通して、郷土の伝統と文化に親しみをもち郷土を愛する態度を育てる。
事後指導	社会科では、見学学習として川越の町や菓子屋横丁に行く予定であるため、郷土の伝統と文化を受け継ぎ、それを支える人々の思いについて実感できるようにする。
家庭や地域との連携	郷土の六所神社の祭りを支える氏子の方々の思いについて話を聞き、郷土への誇りをもてるようにする。

６　評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】
・主人公に自分を投影しながら考えて役割演技を行い、話し合っている。
【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】
・郷土の伝統と文化に親しみをもち、大切にしていくことについて、自分の体験と関連付けて考え、ワークシートに書いている。

７　考察

⑴　道徳科の目標に示された学習活動

①「多面的・多角的に考える」学習活動について

伝統の継承に関わって、大変な苦労を乗り越えたり、強い意志が必要であったりすることについて考えさせるために、機械に頼らず、手作りのあめ玉を作り続けるおじさんの話を聞く「ぼく」に共感させた。児童は、おじさんがあめ玉に込めた思いについて、色々な視点から話し合うことができた。おじさんのあめ玉が美味しいのは、手作りだからではなく、そこにある伝統を守りたい気持ちやお客さんに喜んでもらいたい気持ち、あめ玉作りへの誇りがあるから等、多様な意見が出た。その上で、長い間、伝統を守り続けることのよさや難しさについて多面的・多角的に話し合わせるために、菓子屋横丁のあめ玉について友達に紹介する役割演技を取り入れた。長い間、伝統を守り続けることのよさを『色々な人の努力や思いで、昔からの味が受け継がれていること、自分たちもその味を味わえること』、難しさを『手作業でしか出せない味のため、作業が過酷であること、後継者を作らなければ、あめ玉の味が味わえないこと』として役割演技を行わせた。教師が相手役となって問い返し等を行うことで、考えさせたいことが明確になった。児童から、「今度一緒に行こう」「おじさんの話を聞いてみよう」という伝統と文化に積極的に関わろうとする発言が見られた。これは、おじさんの気持ちを十分考えさせてから行ったため、児童が自分の言葉で役を演じることができたものと考える。

②「自分との関わりで考える」学習活動について

郷土の伝統や文化に親しみをもち、自分を振り返ることができるように、導入での問いかけについて触れた。その上で、『人々の努力で昔から続いているものはありますか。また、そのよさを感じたことはありますか。』とワークシートに書かせることにより、自分との関わりで郷土の伝統や文化、そのよさについて考えることができた。そのため、児童は自分の身近なところに目を向けることができ、地域のお祭りや神社について改めて興味を抱いた様子がワークシートから読み取れた。展開の前半で、伝統と文化を支え、受け継いでいく人々の思いを十分に話し合ったことで、自分の生活を振り返ることができた。書く時間を確保することで、児童がじっくりと考え、よりよい生き方について考えることができた。

⑵　視点☆に基づく本時の評価

【物事を多面的・多角的に考える様子】
☆役割演技において、伝統を受け継ぎ、守っていくことのよさや難しさについて、様々な立場や見方で考えている。

展開における第３発問に関わる評価である。第２発問で、伝統を守り続けていくことの大変さ、

それでも努力を続けるおじさんの思いについて様々な立場や見方から考えたことを生かし、手作りのあめ玉に込められた思いを自分なりの言葉で表現する様子が見られた。中には、手作りに込められた思いを受け止めて、それを受け継ごうとする人が出てくるかもしれないと、これからのことにまで思いを至らせる児童もいた。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】
☆郷土の伝統や文化について自分の体験と関連付けながら考えている。

事前の意識調査で、身近にある伝統を感じる事柄について触れ、その実態を導入でも活用したが、自分を振り返る段階でもそれを活用した。意識調査をとった段階では、郷土の伝統や文化に対しての意識は薄かったが、話合いが深まったことで、児童は自分の経験と郷土の伝統と文化を結び付けて考えることができていた。ワークシートの内容は、ほとんどが自分の体験をもとに書かれたものだった。

⑶　その他

問い返しを工夫することで、児童がねらいとする道徳的価値に対する考えを深めることができた。このことから、道徳科の授業においては、授業者の明確な指導の意図のもと、発問を構成することが大切であるということを強く感じた。

また、郷土の伝統と文化に焦点化して授業を行ったが、郷土に対する児童の関わり方の差が大きいため、教材の提示については、丁寧に行う必要性を感じた。